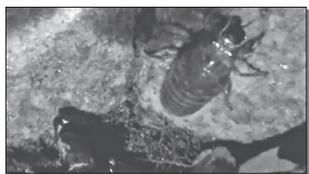


News Clip

& AV Material

◆ ニュースクリップ&映像教材



「アブアゼミのウロウロくん」



「シロアリの研究 あなたは本当のシロアリの姿を知っていますか」

■第10回「全国子ども科学映像祭」入賞作品決定

標記映像祭において、文部科学大臣賞（最優秀作品賞）に、小学生部門「アブアゼミのウロウロくん」、同中学生部門は、「シロアリの研究 あなたは本当のシロアリの姿を知っていますか」の2作品（写真）が決定した。入賞作品一覧は、7頁（協会情報）を参照のこと。なお、表彰式・上映会・記念講演は、平成24年2月11日（土）13：30から、日本科学未来館（東京都江東区青海2-3-6）みらいCANホールにおいて行われる。

研究会情報

■平成23年度「教育の情報化」推進フォーラム

（財）コンピュータ教育開発センターでは、「多様化するICT環境で学び合おう—すべての子ども、先生、社会人が自主的に！お互いに！—」をテーマに標記フォーラムを開催する。

〈日時〉平成24年3月2日（金）10：30～17：30（開場10：00）・3日（土）9：30～12：30（開場9：00）
〈会場〉東京国際交流館プラザ平成（東京都江東区青海2-2-1）

〈内容〉特別講演「ゾウの時間・ネズミの時間・コンピュータの時間」本川達雄氏（東京工業大学教授）、基調講演「教育の情報化ビジョンのめざすもの」（仮題）新井孝雄氏（文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当））、総括パネルディスカッション「多様化するICTに教育はどう向きあうか—スマートフォンの時代がやってくる—」コーディネータ：赤堀侃司氏（白鷗大学教授）、分科会「先進事例から学ぶICT支援員の役

割—ICT支援員の養成に関する調査研究—（第1年次中間報告）「クラウドサービスを用いた学校テレワーク—全職員参加での検証 効果と課題について—」他、ICT実践事例発表、ICT夢コンテスト表彰式等。詳細については、下記を参照のこと。

<http://www.cec.or.jp/e2e/symp/23tokyomf.html>
〈問い合わせ先〉（財）コンピュータ教育開発センター TEL 03-5423-5914

■第5回 SPARC Japan セミナー 2011

国立情報学研究所では、「OAメガジャーナルの興隆」をテーマに標記セミナーを開催する。

〈日時〉平成24年2月29日（水）13：00～17：00
〈会場〉国立情報学研究所12階会議室（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）

〈内容〉講演「オープンアクセスジャーナルとは」西園由依氏（DRF、鹿児島大学附属図書館）、「日本人著者のOA出版動向」佐藤翔氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）、「PLoS ONE and the Rise of the Open Access Mega Journal」ピーター・ビンフィールド氏（PUBLIC LIBRARY of SCIENCE）（通訳つき）等。参加費は無料。

▶ 協会情報

○第10回「全国子ども科学映像祭」入賞作品発表

(財)日本視聴覚教育協会、(財)つくば科学万博記念財団、(独)科学技術振興機構および(財)ニューテクノロジー振興財団主催、文部科学省他後援による標記映像祭は、子どもたちの科学への関心を喚起することを目的とし、カメラの目を通して科学の楽しさ、素晴らしさを理解させて、子どもたちの“科学する心”を育成するため、小・中学生が制作する科学ビデオのコンクールで、本年度第10回目を迎えた。

平成24年1月11日に、作品の応募を締め切り、1月17日に開かれた審査委員会(審査委員長池本卯典氏〈日本獣医生命科学大学学長〉他6名)を経て、応募作品41作品(小学生部門26作品・中学生部門15作品)のうち、以下のように入賞作品が決定した(敬称略)。

■ 文部科学大臣賞(最優秀作品賞)

- 小学生部門 「アブアゼミのウロウロくん」井出麟(相模原市立旭小学校4年)・井出洋子(母)
- 中学生部門 「シロアリの研究 あなたは本当

のシロアリの姿を知っていますか」東京都八丈町立三原中学校 サイエンスクラブ シロアリ班

■ 優秀作品賞

- 小学生部門 「海の掃除機 アサリの力 パートⅡ」、内田悠雅(愛知県岡崎市立大樹寺小学校4年)・内田雅之(父)、「もんしろちょうのかんさつにつき」中沢藍(長野県長野市立長沼小学校1年)・中沢英明(父)

○中学生部門 「壁を上る動物の研究」東京都八丈町立三原中学校サイエンスクラブ 壁登る動物班、「篠島の謎に挑む—プロジェクトチームの奮戦記—」愛知県岡崎市立福岡中学校プロジェクトチーム

■ 佳作

- 小学生部門 「ゆでただんごはなぜうかぶのか?」愛知県岡崎市立竜美丘小学校科学部、「北九州市の長崎の鐘」塚瑞稀(北九州市立花尾小学校6年)・塚佳代子(母)

○中学生部門 「カエルの疑問」兵庫県姫路市立菅野中学校生物・理科研究班動物グループ、「食塩はなぜ壁を上っていくのか」岩手大学教育学部附属中学校科学部

詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.nii.ac.jp/sparc/>

〈参加申込〉 氏名、所属、連絡先を明記し、【第5回SPARCセミナー参加申込】と題し、電子メールまたはFAXで下記申込先まで申込む。申込期限は、平成24年2月24日(金)。

〈申込先および問い合わせ先〉 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課図書館連携チーム SPARC担当 MAIL co_sparc_all@nii.ac.jp FAX 03-4212-2375

と等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://hiroanim.org/>

〈賞〉 グランプリ1作品賞金100万円、ヒロシマ賞1作品賞金100万円、デビュー賞1作品賞金50万円、木下蓮三賞1作品賞金30万円他。

〈作品受付期間〉 平成24年4月1日(日)必着。
 〈作品送付および問い合わせ先〉 広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会事務局
 〒730-0812 広島市中区加古町4-17 アステールプラザ内 TEL 082-245-0245

コンクール情報

■ 第14回広島国際アニメーションフェスティバル

広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会(広島市他による)では、標記フェスティバルの開催(平成24年8月23日~27日・広島市)において、作品を募集している。
 〈応募作品の条件〉 1コマずつ作られた作品であること。ただし、コンピュータによる作品を含む。フィルムまたはビデオテープによる作品であること。上映時間が30分以内の作品であること。平成22年4月1日以後に完成された作品であるこ

各地の情報

■ 「教育の情報化」実践セミナー2012 in 金沢

日本教育工学協会では、「教育の情報化」の今後の展望のための標記セミナーを開催する。

〈日時〉 平成24年2月18日(土) 13:00~16:30
 〈会場〉 金沢星稜大学(石川県金沢市御所町10-1)
 〈内容〉 基調講演「メディアを生かす確かな授業設計について」村井万寿夫氏(金沢星稜大学教授)、展示見学、実践事例報告「ICTを活用した授業実践」他、パネルディスカッション「メディアを生かす授業をどのように具体化させるか」等。

▶ブックレビュー



「日本短編映像史—
文化映画・教育映画・
産業映画—」

吉原順平著
岩波書店発行
2011年11月発行 548頁
6,090円(税込み)

日本が映画産業のさかんなことは、よく知られている。しかし、劇場で上映される映画以外の映像作品の動向は、必ずしも、明らかではない。

最近、一般市民が自作した作品が、そのままに広く流通して、上映されるようになって、映像の利用は、ますますさかになりつつある。

だが、科学・産業とそれぞれの道の専門家によって製作される映像作品もまた、数多く存在する。それらを短編映画と一括して呼ぶことが許されるとすると、その歴史や動向も、われわれは知っておかなければならない。しかし、これまで、これらの作品の動向について、まとまった文献は、田

中純一郎氏の「日本教育映画発達史」(1979年)を除いては、あまりなかったといわざるを得ない。

今回、長く岩波映画製作所で、さまざまな分野の短編映画の製作に携わってきた吉原氏が、その知見と実践を通じて得たところをまとめた本書は、待望のものといつてよい。

著者は、戦前・戦中の概況を振り返り、戦後の動きを「教育映画」から「産業映画」へと展開していった拮据りと展望を試みている。とはいえ、将来は、必ずしもバラ色ではないことに著者は着目している。

それは、映像製作の専門家が、その映像で描かれる分野の専門家との共働作業に取り組むことによって、質の高い作品が生まれる、ということである。しかし、教育映画という場合、そこにさらに教育の現場での活用の方策をあわせ考えなければならぬ。という条件が加わる。この点からも、なお一層の工夫が要求されるのである。

今日の社会の中で、映像作品の効果的な活用が期待されることは確かで、製作が困難な中でも、可能性は、ますます大きくなるに違いない。本書は、その展望を指し示すものである。(高桑康雄)

〈対象〉 小中高等学校教員、関連企業、大学研究者など(申し込み先着順)。申し込みおよび詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.jaet.jp/katudou/s120218kanazawa2.html>
〈問い合わせ先〉 日本教育工学協会事務局
TEL 03-5575-0871

者虐待のない社会へ」◎24分〈青年・成人、家庭生活(家庭介護)〉(株)映学社

「どう守る 女性の人権—女性が活躍できる職場づくり—」◎23分〈青年・成人、国民生活(男女共同参画社会)〉(株)映学社

文部科学省選定作品

- 12月選定 紙しばい / ビデオ / DVD
- 特選「ちきゅうをみつめて」◎30分〈中学校、理科/少年・青年・成人、教養・情操(自然科学)〉
日本科学未来館
- 「きかんしゃシュッシュ」紙 8分〈幼稚園/幼児・教養〉(株)童心社
- 「医者として—映像と証言で綴る農村医療の戦後史—」◎108分〈青年・成人、教養〉(株)グループ現代
- 「子育てに希望を!—児童虐待のない社会のために—」◎19分〈青年・成人、家庭生活(子育て)〉(株)映学社
- 「なぜ、介護者が虐待を…—介護者支援から高齢

放送番組

中学生日記

- (金) 19:25～19:55 / Eテレ 全国
- (土) 9:30～10:00 / 再放送 NHK総合 中部7県
- (土) 12:30～13:00 / 再放送 Eテレ 全国 (除く中部7県)
- ※都合により番組内容が変更となる場合があります。
- 3日 シリーズ決断の時(1)「決断クラブ」
- 10日 シリーズ決断の時(2)「トライアウト—ボクの2つの決断—」
- 17日 プレーバック
- 24日 総集編

▶ 文部科学省情報

平成24年度教育の情報化関係予算（案）について

文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）付参事官補佐 妹尾 剛

平成24年度の文部科学省所管一般会計予算案総額は、対前年度1.7%増の5兆6,377億円。

学校施設の復旧・耐震化や原子力災害からの復興支援など、国家的な危機である東日本大震災を乗り越えて復興を実現させるために必要な復旧・復興に係る経費を盛り込んだ予算内容としたことが特徴。

我が国の経済社会を再生し、国民一人ひとりが希望をもって前に進める社会を実現するため、教育による多様な人材の育成、スポーツ・文化芸術の振興、科学技術の推進に資する施策を重点化し、厳しい財政状況下においても、対前年度949億円増の5兆6,377億円を確保した。

生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）における平成24年度予算案の内容は、以下のとおり。

●「学びのイノベーション事業」（継続）

21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を実現するために、様々な学校種、発達段階、教科等に応じ、モデルコンテンツの開発や、デジタル教科書・教材、情報端末等を利用した指導方法の開発等の効果・影響を検証するとともに、教員へのサポート体制の在り方を検証するなど総合的な実証研究を行う。

また、各地域における情報通信技術の教育活用の好事例等の収集や普及、教育の情報化に関する実態調査、先進国の教育における情報通信技術の活用状況等についての調査を行う。

●「教育用コンテンツ奨励事業」（継続）

教育上価値が高く、学校教育又は社会教育におけるさまざまな活動の中で利用されることが適当と認

められる教育用コンテンツを選定し、その普及・促進を図る。

●「情報教育の推進等に関する調査研究」（新規）

小中学校段階における児童生徒の情報活用能力の育成方策の検討を行い、学習指導の改善を図るとともに、今後必要となる教育課程の検討に資するため、子どもたちの情報活用能力の習熟状況やICTを活用した学習状況について実態調査を実施するとともに、解答プロセスを分析するなど、多角的な分析手法を確立する。

●「被災地におけるICTを活用した学習支援」

【予算事項】

○「被災地におけるICTコーディネーターの配置（新規）」

学校、教育委員会等に地域の学びの場をプロデュースするICTコーディネーターを配置し、デジタル教材等を活用して児童生徒の学習支援を行う。

【その他】

○「応急仮設校舎等における電子教材（電子黒板等）を設置する費用を措置（新設）」

応急仮設校舎（間借りを含む）等で当面の間、使用する設備（教材、教具、校具等）に関して、応急仮設校舎等が偏狭であるなどの理由により、被災前の学校において授業で用いていた教材等を設置することができない場合には、新たに電子教材（電子黒板等）を設置する費用を措置する。

（・対象：公立の小中学校・財政措置：2/3国庫補助（設置者の標準税収入に応じて最高で96.7%まで嵩上げ）

平成24年度教育の情報化関係予算案額
【生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）】（千円）

事業名	平成24年度予算案額
学びのイノベーション事業	280,546
教育用コンテンツ奨励事業	24,183
情報教育の推進等に関する調査研究	41,315
被災地におけるICTコーディネーターの配置	10,800 [※]
応急仮設校舎等における電子教材（電子黒板等）の設置	公立学校施設災害復旧事業の対象として追加

※学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(1,082,006千円)のメニューとして弾力的に執行